

2022 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4076500125		
法人名	有限会社ケアセンターすずらん		
事業所名	グループホームすずらん	ユニット名	2棟
所在地	福岡県朝倉市杷木穂坂89番地の1		
自己評価作成日	2022年9月20日	評価結果市町村受理日	2022年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2022年10月3日	評価確定日	2022年10月31日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの周囲は、田・畑・果樹園、山並みや筑後川の流れが広がり季節の移り変わりが自然と目に見えています。押し車や車椅子の方が多く、散歩の時に季節の花や野菜、稲やブドウ、柿の実りを見て楽しんで頂いています。地域のよど祭りやお大師様などの行事にも参加し地域の方々との交流を深めるとともに、毎月、何らかの行事か外出を計画しホームでの生活を楽しく頂けるようにしていますが、この3年はコロナ禍のため多くの行事ができなくて残念です。また、御本人様の出来る事はできるだけ御自分でやって頂けるよう支援しています。さらに、自立支援・重度化防止に資する介護を進めるため、協力病院の作業療法士の指導のもと、機能訓練を行っています。主治医やご家族との連絡を密にして、身体機能のレベルが低下した利用者様でも、出来るだけホームの行事に参加していただいたり、個別にドライブ等の外出の機会を設けるとともに、希望する方にはターミナルケアを行うなど、利用者様やご家族が「良かった」と喜んで頂けるようなケアに取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

2005年の開設時、ホームの敷地に植えられた柿の木も成長し、毎年美味しい柿を収穫できている。ご利用者と一緒に野菜も育て、季節の料理を楽しまれている。『地域と共に支え合い、楽しくのんびりゆったりと、急がずあせらず「私らしい生活」を、地域のぬくもりと明るい笑顔ですずらんライフ』という理念通りの生活をされており、コロナ禍も変わらず、ご利用者に優しく寄り添う職員の姿が見られている。日々の健康管理に努め、水分量に気を配り、便通の良い物を摂っていただくと共に、体操やリハビリで体を動かす機会も作られている。日々の身だしなみも整え、週1回、爪切りや耳掃除もされている。前回の外部評価以降、計画作成担当の方々を中心にアセスメント用紙の改良が行われ、ご本人をより深く理解できるように努めてこられた。「できそうな能力」の記載も増やし、自立支援のケアに繋げており、コロナ禍における職員同士の助け合いも行われている。家族の方々のご協力も有難く、日々の生活の中で笑顔を引き出す取り組みを続けている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に唱和し理念に沿った介護の意識づけをしている。	理念の中に「地域と共に支え合い」という言葉があり、ご利用者も地域の一員として暮らされている。ご利用者の意見を優先すると共に、楽しく過ごして頂けることを大切に、理念にある『急がずあせらず「私らしい生活」』になるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症予防のため、施設行事を通して地域との交流ができていない。施設近所の散歩時に地域の方とすれ違う際などに挨拶をしている。	運営者が地元の方であり、地域交流や地域貢献を続けてこられた。地域の方から葡萄等の果物や野菜の差し入れがあり、杷木コミュニティから頂いた花の苗をプランターに植え、地域の方に喜んで頂いている。コロナ前はホームのソーメン流しや餅つきの際に、地域の方や子ども達と楽しむ機会が作られ、地元のお大師様参りや泥打祭りに参加していた。コロナ禍もホームの駐車場で「もぐら打ち」が行われ、事務長手作りの竹竿で地面を叩き、五穀豊穡や家内安全を願う伝統行事を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症やグループホームの話をして、理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開き、地域の民生委員、老人会長、市職員、利用者様、ご家族様に参加して頂き、サービス提供の内容報告や情報交換、意見交換などを行うとともに参加者から提案要望を受けて、ホームの質の向上と理解につなげている。	書面開催の際は、ご意見や情報提供を記入する用紙と返信用封筒を会議資料と一緒に郵送し、意見等を返送して頂いている。通常開催の際は杷木地域生涯学習センターで行い、ホームの取り組みや研修受講状況、コロナ禍における面会状況等を報告し、身体拘束等適正委員会も一緒に行われている。外部評価結果（自己評価）も報告し、コロナ禍の施設運営の困難さなどの労いを頂いた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所主催の研修に参加して質問や助言を頂き、サービスの取り組みを相談している。運営推進会議に市担当職員に参加して頂き、助言等を頂きサービスの向上につなげている。生活保護担当者とも来訪時や電話での連絡を取り協力関係を築いている。	コロナ感染防止に対応した運営推進会議の開催方法や、生活機能向上連携加算、口腔衛生管理体制加算等の助言指導を受けている。認定の更新等は事務長や管理者等が市を訪問しており、コロナ以前はご利用者も一緒にお連れし、市役所のお花を眺める機会が作られていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしなければいけない状況でも職員同士意見を出し合い、拘束しないケアに取り組んでいる身体拘束禁止虐待防止についての外部研修(Web)に参加し、その研修内容を勉強会を通して職員で勉強し共有している。	ご本人の思いに寄り添い、穏やかな生活になるように努めている。体調に応じて主治医に相談し、アドバイスを頂いている。日々の見守り等と共に、ベッドセンサーや超低床電動ベッドを利用している方もおられる。身体拘束と虐待等の研修も行われ、職員個々の意見を記入した用紙の最後に、施設長がメッセージを添えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣い、虐待等(グレーゾーン)について何が虐待にあたるかサービス担当者会議で話し合い、職員一人ひとりが意識し共有している。日ごろの業務内でも考え行動に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サービス担当者会議などで勉強会を行い、制度について学んでいる。ご家族様にもパンフレットを準備し説明している。	「高齢者虐待防止及び高齢者の権利擁護」「成年後見制度等の内容や利用方法」等の内部研修や、2022年7月は福岡県高齢者権利擁護等推進研修を受講している。入居時に管理者が制度の説明を行い、入居後も必要時は制度の説明を行う予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に「利用契約書」「重要事項説明書」「重度化した場合における対応に係る指針」「個人情報保護に関する同意書」を説明し、不安に思うことや疑問に対する事等を回答して、理解し納得して頂けるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナにより面会ができたり、できなかったりがあり、ご家族様へは月1回の生活状況報告書、すずらん便り等で利用者様のご様子を伝えている。ご家族様からの電話での問い合わせにも対応している。	毎月の「すずらん便り」には、ご利用者の笑顔の写真が溢れており、その月の行事食も写真で紹介している。コロナ禍における面会状況等は事務長から家族にお知らせしており、対面での面会(窓越し等)や電話、メール等を通して、家族の思いに寄り添うように努めている。今後も暮らしぶりの報告の仕方を検討していく予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務内での意見やサービス担当者会議などを出し合った意見は、ユニット長がまとめて管理者に報告している。	管理者と各ユニット長、全職員が結束し、ご利用者の楽しさを増やす企画を考えている。職員個々の家族状況に配慮し、家庭と仕事の両立ができるように努めている。コロナ禍における勤務希望（子育て等）に対応したり、体調に応じた業務の配慮を含め、働きやすい環境作りを続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(特定)処遇改善加算及びベースアップ等支援加算を取得し給与の改善に努めている。職員の生活状況、体調、希望休に応じた勤務表を作成し、家庭と仕事の両立ができやすいように考慮している。各種手当（資格、夜勤、日祝日出勤、介護業務、家族、住居等）を支給しています。看護・介護休暇、短時間勤務の体制もできている。研修は勤務扱いとして旅費を支給している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別、経験の有無による制限はしていない。各行事の担当者を決めて他スタッフと協力して行っている。資格取得に向けた支援をして実務者研修等に参加している。	採用時は「やる気」と共に、前向きに取り組む姿勢などを大切にされている。職員個々の長所を引き出すように努め、「絵を描くこと」「歌や踊りで人を喜ばすこと」「話術」等を日々発揮して頂いている。職員の自主性も大切にされており、1つのユニットでは、職員の意見でユニット長を交代制にするなど、それぞれのユニットの意見を尊重した体制作りを努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修の機会があれば参加し、研修報告書を回覧するとともに、機会あるごとに人権を尊重した介護に取り組むよう指導している。職員同士が業務中もご利用者様の行動を把握し情報交換を行っている。	事務長や施設長が、毎年「事業主人権問題研修会」等に参加している。「差別をしない」ケアの実践に繋げると共に、ご利用者の行動の背景を分析する姿勢を職員と共有している。優しい職員が多く、日々丁寧なケアが行われている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上のため、初任者研修・実務者研修や興味のある研修に参加できるようにして旅費も支給している。研修に参加して、他職員に必要な研修報告書としてまとめて、いつでも閲覧できるように提供している。資格所得援助金制度を設け職員の資格所得を推進している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会、日本認知症グループホーム協会、朝倉介護保険事業者協議会や市町村、施設などの行事にも参加し、意見交換を行っている。疑問等がある時はその都度、管内の他のグループホームに連絡し意見等を聞いている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人様とケアマネジャー、ソーシャルワーカーと面談を行い必要としている支援を聞き入れるとともに心身の状態等を見極めて、施設の会議で情報を共有し話し合いを行い、安心して入所して頂けるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にアセスメントにそって情報を聞き取り、ご家族様の要望や不安を傾聴し、職員間で話し合っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様との面談を行い、主治医、看護師、ケアマネジャー等からの情報を元に職員で話し合い、ご本人様が安心して生活出来るように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできる範囲や状況に合わせたお手伝い（洗濯物干し・たたみ、テーブル拭き、掃除等）をしていただいている。感謝の言葉を伝えると笑顔になられている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで面会ができないことも多く、主に生活状況報告書で状況報告している。ご家族様が物品を持ってきていただいた時にも状態報告し、電話でも報告している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔話等を話すことで忘れないように努め、日常生活の中でご利用者様より生活歴を教えてくださいいただき会話に盛り込んでいる。	日々の生活や家族の面会時に生活歴を教えて頂いている。敬老の日や母の日に、家族からプレゼントやお花が届き、ご本人からお礼の電話をする方や、兄弟姉妹から年賀状や暑中見舞いのハガキが届き、嬉しそうに読まれている方もおられる。受診の帰りに自宅前を通られたり、コロナ以前は友達が面会に来て下さっていた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや機能訓練等に参加して頂き、利用者様同士で声をかけたり、耳の遠い利用者様には職員が間に入り楽しく会話できるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族様の訪問に対して受け入れ、お会いした際は挨拶をしている。また、亡くなられた方のお通夜、お葬式に行ったり、ご自宅へ花を送っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活で話しやすい雰囲気づくり等、利用者様一人ひとりの希望や意向を把握するようにしている。会話が難しい方は表情を見て把握するように努めている。	日々の生活で思いを伺うと共に、意思疎通が難しい方は、ケア時に快・不快を含めた心理を読み取るようにしている。食事や飲水量が少ない時は家族に相談し、好きな食べ物を教えて頂いている。「本が見たい」と希望される方には本を準備し、家族から「畑仕事をさせてほしい」という希望がある方は、体調に応じて役割を担って頂いている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様から今までの生活歴・環境を伺い、ご本人様が生活する上で生活しやすい環境を職員同士で話し合い馴染みの暮らしができるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の気持ちや心身の状況、表情から状態を把握し、申し送り等で職員同士が共有している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28	(13)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々の状態や課題などを職員やご家族様から意見を聞き、サービス担当者会議で話し合い、意見をまとめ、利用者様が安心安全に生活できるようプラン作成を行っている。</p>	<p>前回の外部評価以降、アセスメント用紙の改良を続けてこられた。生活歴や心身状況等の記録を増やし、食事・排泄・移動・入浴等を含め、職員全員でケア内容を検討している。ご利用者の要望を把握し、家族と共有すると共に、心身の変化が見られた際は医師や看護師、筑後温泉病院の作業療法士等からアドバイスを頂いている。</p>	<p>今後も引き続き、入居時の認知症の確認を行うと共に、各活動の要望など、日頃把握できている内容をアセスメントに追記し、介護計画に繋げていく予定である。</p>
29		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の様子・状態・介護記録等を見て気づいたことを申し送りの中で共有し、ケアに活かしている。</p>		
30		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者様が生活する上で必要な物品をそろえ、ご家族様が買ってこられない時は、施設で購入を行い家族の負担軽減を図っている。</p>		
31		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍で施設内だけの行事になり、地域の方と接することが少ないが、散歩等で挨拶をかわし地域の関係を保つようにしている。</p>		
32	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所時にかかりつけ医の希望を聞き、定期的に健康診断に行ったり、体調が悪い時などはかかりつけ医の受診をして、家族と相談しながらその都度対応している。 往診できない医療機関へは職員が利用者様を連れて行き受診している。</p>	<p>日々の体調観察に努め、早期対応に繋がっている。希望の医療機関に受診でき、主に看護師が通院介助している。ホームの看護師に24時間体制で指示を受ける事ができ、2人の医師の往診（月2回）もあり、日々のケアや薬の調整等の指示を頂いている。必要に応じて精神科医に相談し、アドバイスを頂き、訪問看護も利用できる。受診結果は家族に電話等で報告し、毎月の生活状況報告書でも報告している。手術の適応等、重要な決定が必要な際は医師から家族に説明があり、行き違いがないように努めている。</p>	<p>今後も引き続き、医療機関で行った検査結果等の共有方法を含め、家族・主治医と検討していく予定である。</p>

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態変化や気づいた点がある時は、その都度、看護師に報告し、利用者様が適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に家族と連絡をとったり、ソーシャルワーカーと連絡を取り、入院中の様子を聞きその情報を職員で共有している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて主治医を交えた詳しい説明相談を行い、ご本人様やご家族の意向を聞いた上で、出来る限り対応できるよう職員全員で情報を共有している。ターミナル同意書や緊急連絡先の記入をいただいている。	入居時にターミナルケアの体制や医療連携を説明し、ホームでできる事や訪問看護の利用ができる事、ホームに家族が泊まって頂ける事などを説明している。体調変動に応じて主治医と話し合い、点滴等も行われ、ホームの看護師や訪問看護師との連携もできている。職員全員で情報共有し、誠心誠意のケアが行われている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル作成し職員一人一人が初期対応を訓練し、利用者様に応じた対応ができるようにしている。分からないことは看護師・主治医へ相談している。緊急時の連絡先を壁に貼り分かりやすいようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や水害等の避難訓練を行い、訓練後には反省点・改善点を出して次回の訓練につなげている。非常食等はキャリーバッグに入れ、職員は場所の把握をし定期的に確認している。	穂坂区と「非常災害時等に関する協定書」を締結し、地元の消防団との交流もある。自然災害に関するBCP（事業継続計画）も作成し、年2回の訓練時、窓のロックの高さや夜間の避難誘導の改善内容の検討も続けている。レトルトカレー20個、ご飯3パック5袋、サバ缶10缶、おかゆ6個等の非常食を準備している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の意向を尊重し意見を傾聴している。利用者様に対する言葉づかい、プライバシー保護に配慮し利用者様のペースで生活できるように努めている。	ご利用者の日課を理解し、ご本人のペースで生活できるように努めている。言葉遣いにも配慮し、オムツ交換時やトイレ誘導時の声かけは小声で行い、パッド交換時も優しい声かけをしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話、表情から、本人の思いや希望を引き出し、自己決定ができるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションやリハビリの声かけを行い、利用者様一人ひとりのペースに合わせ、笑顔で楽しく生活できるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床介助時、ホットタオルで顔を拭いていただいたり、髪をといたり、ご本人様の使用されているブラシが使えるように洗面台に準備している。散髪に来ていただいたり、週1回爪切りや耳掃除をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物、食べたい物をお聞きしたり、季節の野菜を使い色合いに気を付けて料理を提供している。食材を見ていただき名前を言ってもらおう。バイキングを行い自分で取れない方には声かけして職員が取ってあげた。	3食とも手作りされており、2つのユニットで献立は異なる。朝倉市シルバー人材センターのOBの方が調理に来て下さり（月22日程）、煮物等も好評である。畑で収穫した野菜も美味しく、季節の料理が作られており、バイキング等も楽しまれている。ご利用者も下膳、テーブル拭き、食器洗い、食器拭き等をして下さり、おやつ等をランダで食べる時間も作られている。	今後も朝食を含め、全体の栄養バランスを振り返られると共に、管理栄養士等のアドバイスを受ける方法などの検討を行っていく予定である。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に合った食事形態にし、お箸やスプーンもその方に合った物を使って頂いている。食事量・水分量をチェックし把握して職員で連携を取り対応している。経口栄養剤を飲んでいただいている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯みがきできる方はご自分でして頂いている。磨き残しがある方は職員が再度磨いている。麻痺があり歯みがきできない方は口腔内ウエットティッシュを使用し口の中を拭いている。義歯はポリドントにつけ清潔にしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の希望に合わせてトイレ介助・見守りをして排泄記録をつけ、職員が把握するようにしている。オムツの方は排泄時間を決め交換している。	立位ができる方はトイレで排泄して頂いている。布の下着を着用する方もおられ、見守りがあれば、ご自分で排泄動作ができる方も半数程度おられる。尿便意等を察して個別誘導することで失禁が減少した方や、排泄時のケアが減った方もおられ、立ち上がりや立位ができるよう生活リハビリを続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を配り、食事も便通の良い物を摂っていただき、体操やリハビリで体を動かしたり腹部マッサージ等を行い排便を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の気分、体調に応じて入浴していただき、入浴を嫌がる時は日にちをずらして対応している。入浴中、リラックスしていただけるよう会話をしている。入浴できない方には清拭を行うようにしている。	ホームの畑で柚子を収穫し、柚子湯を楽しまれている。湯船に入れる方は限られており、シャワー浴の際に浴槽や洗面器に足をつけて保温し、職員との会話を楽しまれている。できる所は洗っていただき、自立支援に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態によりベッド・電動ベッド・畳にしたり、エアマットを使用したりしている。室内の温度や加湿器を使用して湿度にも気を配り快適に過ごしていただけるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人ファイルに入れて、いつでも見られるようにし、変更があった場合は申し送りにて伝え周知徹底している。錠剤が飲めない方には、薬をつぶして、水分にトロミをつけて服用して頂いている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と洗濯物たたみや洗濯物干し等のお手伝いをしていただいたり、歌の好きな方には職員や他利用者様と一緒に歌っていただいている。声かけしてなぞり書きをしてもらっている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより外出できていないが、近くにミカン狩りや柿狩り、芋掘りに参加している。周辺を散歩して花を見ていただいたりしている。	ホームの畑の野菜を眺めたり、日々の散歩を楽しまれている。ミカン狩りや柿狩りの際は、その場で皮をむいて食べることができ、楽しいひと時を過ごされている。季節に応じた花見（桜・紫陽花・向日葵・つつじ・秋桜等）やドライブをされている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難のため、必要物品は施設で立て替えたり、電話で御家族と相談して購入している。利用者様のお金管理はご家族が行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの絵ハガキ等はご本人様に見せて読んでさしあげたり、居室に飾らせて頂いている。電話で話ができる方は電話でお話して頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に季節感のある飾りつけを行い、居室にはご家族様の写真を飾っている。ほおづきを頂いたので居室とホール、玄関に飾っている。	コロナ感染防止対策で、玄関内とホール間にビニールカーテンを設置している。換気も行き、24時間の天井ファンも使用し、臭気（感染）対策を続けると共に、適宜清掃も行い、環境整備に努めている。季節に応じた飾り付けを行い、行事の写真も掲示し、会話のきっかけとなっている。1つのユニットにリハビリ機器があり、階段昇降をされる方もおられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにてゆっくりテレビを見ていただいたり、テーブルの椅子に座って職員と会話したり、ベランダで外の景色を見たりして過ごしていただいている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の窓から外の景色を見て頂いたり、居室には御家族様が作られた物や写真を飾り、使い慣れた物を持ち込んで頂いている。	居室の入口に顔写真や番号を掲示し、ご自分の部屋として認識して頂いている。居室から柿の木や畑の野菜などを眺める事ができ、収穫時期を教えて下さる方もおられる。居室にはタンス、時計、洋服、ひざ掛け、シルバーカー、スリッパ、布団、杖、帽子などを持参し、家族の写真も飾られ、季節の飾りつけもされている。クマのぬいぐるみと一緒に寝られる方もおられる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせ畳からベッドに変えたり、ベッドの頭の向きなどを利用者様に合わせている。転倒防止のため、すべり止めマット、センサーマットや足元センサーを使用している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				